

令和3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471903136	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	有限会社ライム倶楽部山下		
事業所名	グループホーム来夢の家		
所在地	(〒238 -0046) 神奈川県横須賀市西逸見町1-38		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和3年10月15日	評価結果 市町村受理日	令和4年1月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>今年も昨年同様、コロナ禍で外出できず自粛の年でしたが、通常は地元の町内会との交流を季節の行事に合わせ参加し、共に作り楽しむことにしている。一昨年からの懸案である、非常や災害時の協力に関しても協力していく。 施設内の掲示物や飾りつけに季節感を感じる工夫をしている。 面会時間は自由（現在は予約制）にしており、来訪しやすい環境を作る。 近隣の保育園や市民グループとの交流会には積極的に参加している。現在、中止中。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和3年11月15日	評価機関 評価決定日	令和3年12月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇研修体制の整備 ・年間計画を立て、サービス充実のための内部研修を行っている。状況に合わせて内容や時期は柔軟に変更している。事業所に届く外部研修の情報を掲示し、職員は自ら選んだり管理者の勧めで受講している。資格取得や職員が自ら探し希望して受講する外部研修を含め、費用負担などの受講支援体制がある。各種研修受講後、職員は研修報告書を作成提出し確認を行っている。 ◇看護職員の専門性を生かした支援 ・週3回看護師が勤務し、かかりつけ医と連携して利用者の日常の健康管理を行っている。看護師は必要に応じてケアカンファレンスや身体拘束廃止委員会に参加するほか、終末期援助研修の講師を務めるなど、専門性を生かして事業所のサービス向上に寄与している。 【事業所が工夫している点】 ◇コロナ対策 ・密を避けるため、リビングダイニングの配置換えで食事スペースを広げ、テーブルを増やして座席間のゆとりある間隔を確保している。 ・中止せざるを得ない外出に代え、利用者の心身の健康のため、体操や歌唱、おやつ調理、盆踊り大会など、室内レクリエーションの充実を図っている。 ・職員は原則週1回、PCR検査を受けている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム来夢の家
ユニット名	壺番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「来夢の家」の理念を開設当初より作成し、各ユニットに掲示し、スタッフは共有し、日々の介護実践に反映している。管理者は、定期的なミーティングの際に、常に確認している。	・理念「慈愛・尊敬・受容のこころを大切に」を事務室に掲示し、利用者第一の支援に努めている。 ・コロナ禍で中止されている外出に代えて、室内での盆踊り大会や、皆でおやつを作って食べるレクリエーションを実施するなど、利用者第一の視点での支援を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度同様、新型コロナの影響により、地域の行事が全て中止となり、保育園児との交流もできなくなりました。これは、地域全体の問題で、人と接する機会がなくなりましたので、交流ができません。	・町内会から依頼を受けてAEDを設置し、町内回覧や玄関前に貼った設置シールで地域に知らせている。 ・季節ごとの、地域や事業所の行事、ボランティアの来訪などで地域住民と利用者が交流しているが、現在感染防止のため中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度同様、新型コロナの影響により、地域の行事が全て中止となり、認知症に関する関りもできなくなりました。これは、地域全体の問題で、人と接する機会がなくなりましたので、地域の皆さんに活かす機会がありません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も地域の代表者との会合ができず、町内会長や民生委員の方々との話し合いや取組みができない。電話では、意思の疎通ができなかった。	・コロナ禍前は、利用者家族、町内会代表、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員を委員とし、原則年6回運営推進会議を開き、活動報告を行い意見を聞いていた。 ・今年度はコロナ対策で、書面会議を試みたが、一部委員の反対があり、開催できていない。	事業所の活動報告を行い、委員の意見を聞く、コロナ禍に於ける運営推進会議（書面会議）を、委員の協力のもと実施することに期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携は、制度の改定等での指導や説明を通して、ホームの現状を伝えている。特に、横須賀市が独自で行っている、オムツの支給サービスや布団クリーニング等に協力し、利用者利益になるよう連携を行う。	・市の実施するオムツ支給や布団クリーニングの利用のほか、コロナ対策物資の充足状況の報告や受給で連携し、事業所の状況を伝えている。 ・老朽化したベランダの改修を市に申請し、補助を受けて実施した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	壱番館では、身体拘束を行わない理念の基に常に援助を心がけている。幸い、現在は対象のご利用者様がいないこともあるが、毎月フロアーミーティングを行い、拘束予防に努める努力をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に内部研修を行い、身体拘束をしないケアに努めている。 ・現在、車椅子からの滑り落ち対策のベルトを1名に使用している。指針に則り職員間で検討し、利用者と家族に説明し同意を得て実施し、毎月身体的拘束廃止適正化委員会で利用者の現状に合わせ見直している。 	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待防止について検討し、フロアーでも話し合う機会を作っている。虐待に関しては、言葉遣いに重要性を置いて、日常の接遇面でスタッフ同士が感じることを話し合うこととしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、管理者とフロアリーダーによる虐待防止委員会を開き、議事録で職員に議事内容を周知している。 ・虐待防止の内部研修を定期的に行い、職員の気になる言動は、互いに注意し合い、また管理者が速やかに指導している。 	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間を通して、施設内で行う「内部研修」にて、スタッフが共に学びあえる機会を作り、共に研鑽している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、今年度の制度説明を含め十分な説明を行い、同意を得る努力をしている。日常の介護の面でも入居の際に、個別のケアについてスタッフのケアとご家族の係わりについても協力を説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム利用上の苦情を受け付ける窓口を明確にして、苦情に対する早期の対応及び解決を心がけている。また、管理者より職員への指導も徹底して行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・主に電話連絡の際に、家族の要望を聞いている。利用者や家族の要望を受けて検討を繰り返し、現時点では重度化した利用者への面会のみを再開している。 ・管理者は、家族の意見把握の意義や対応方法を職員に指導している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会議にて、老番館及び式番館のスタッフからの意見を代表者と管理者が話し合い、事業所の運営に活かしている。特に、面会を制限しているため、ご家族への対応に関して、十分な配慮をしている。	・人事考課面接や各種会議の他、日常的に管理者やフロアリーダーは職員の意見を聞き取り、運営に反映すべく検討している。 ・朝食への冷凍配食の導入についてを、フロア会議の議題とするなど、職員の意見を運営に反映している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎年職員の就業状況を判断して、給与の水準アップや公的な最低賃金等にも配慮して、適切な処遇を目指している。休憩場所の確保や環境にも配慮している。常勤職員と非常勤職員との賃金格差がある。同一労働、同一賃金に違いあり	・人事考課を処遇に反映している。 ・定期的なフロア会議やリーダー会議などで職員の意見を聞き、運営に反映する仕組みがある。 ・隣接のマンション1室を休憩室として借り上げ、職員が現場を離れて休息できるようにしている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の教育は、個別の希望と事業所の要望を取り入れ、年間を通して計画し、資格の取得にも援助している。勉強会では、時期的に応じて企画を立てて、現在の業務に沿った勉強会としている。	・年間計画を立て、内部研修を実施している。外部研修の情報を掲示し、職員は自らの希望や管理者からの勧めで受講している。職員は研修受講後、報告書を提出している。 ・外部研修受講や資格取得への事業所としての支援体制がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍により、同業者との交流はなく、研修にかんしてもリモートが多いため、互いの環境に大きな変化があった。ネットワーク作りに関しては、以前よりも連絡が増えたと思う。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新たに入居される方々に対し、ホームを理解していただくような説明と理解を得る努力をします。始めて、ホームを利用される方に対し、受容を基本として、傾聴する姿勢で接します。安心が一番の接遇です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新たに入居された利用者のご家族には、生活日課や環境が不明なので積極的に状況をお知らせします。お手紙に写真を載せて、目で見えるようにし、行事には参加を促し、ご家族も楽しんでいただくようにする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前に、事前に面接をさせていただき、利用者様とご家族様の両方にお話を聞きます。その上で、具体的なプランを作り、同意を得た後、入居いただき生活が始められるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を受ける方の生活支援を介護する側の援助とはせず、利用者ファーストの意識で共に暮らす者として、関係を築きます。生活にはストレスもあり、ホームの中や外を活用して共に過す仲間のような関係作りをします。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係作りは、ご家族がホームの介護に口を出せない関係ではなく、自宅での介護状況や昔の出来事などを介護に活かしていくように、ご本人の有意義な情報の提供と実践を行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が入居前に大切にしていた家具や物、音楽、人等をご家族より聞いて、実生活に活かすように努力します。面会が制限され、外部の人と会う機会が減ったので、関係の維持が難しい時期だった。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、原則面会は中止しており、感染予防策をとった上で重度化した利用者に関してのみ、予約制の面会を受け入れている。 ・家族からは、面会に代えて手紙や花が届き、職員が支援して近況写真を添えるなどして、返信している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の生活リズムの違いを把握し、一人になる時間やリズムを整える事で孤立を防ぐようにしている。昼間に居室で一人になり過ぎ時間を短くし、食事のテーブルでグループワーク等を行い、互いの協力を得るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了後も居宅介護支援事業所との引継ぎをしっかりと行うと共に、介護方法や必要な物品の調達等について助言できるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の言動や表情からご本人の意見を汲み取り、その人らしくホーム生活を送っていただけるよう心がける。	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に会話し、言葉とともに表情や態度からも利用者の思いを把握している。把握した思いは、申し送りや記録で職員間で共有している。 ・把握困難な場合は記録類や家族からの情報をもとに推測し、利用者の思いに沿った支援に努めている。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活や若い頃の様子等をご家族から聞き入れ、これまでの生活の様子を把握して、スタッフが共有できるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が一人ひとりの全身状態を把握し、自力でできる事柄には積極的に参加していただけるよう努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来夢の家で暮らす皆様方の生活援助に関する課題や目標を期間内に振り返る時間を設け、日々の暮らしの様子を検討していく。短期間に試行するような内容も個々別があり、ご家族との意見も反映していく。	・6か月ごとのアセスメントやモニタリング、毎月のケアカンファレンスでの看護師や介護職員の意見をもとに、原則6か月ごとに介護計画を作成している。 ・利用者や家族の意見や、医療関係の記録内容を計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を日々、時間の経過と共に記載し、職員の申し送りの際には一人の情報として伝達していく。また、全職員が情報の共有をするために、申し送りの活用をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の対応として、その時のニーズに応ずる体制作りは、その都度その場で検討して対応していく。急な病院受診のニーズもあれば外出もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着がテーマの施設であるが、新型コロナの影響で交流が出来なくなっている。コロナが収束したら再開したい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の診療については、個別の体調や慢性病等の療養管理をご家族の意見を聞き入れ、定期的な診療を提供していく。専門的な治療については、その都度専門医の指示を受けて、各科の医師と協力していく。	・利用者・家族の同意を得て、現在全員が協力医療機関の医師をかかりつけ医とし、訪問診療を月2回受けている。 ・専門医への通院は原則家族が同行し、必要に応じて管理者が同行して受診結果をノートで共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師が出勤する時に、必要な処置や専門的な助言、健康指導を行っている。健康チェックについては、急な変化に十分配慮して、病気の可能性を予知して考える。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況については、医療機関のスタッフに十分状況を聞き入れ、状況を把握する。その際に、直接面接して打合せを行う必要もある。早期の回復や退院に向けた手段を共に共有できる連絡を続けていく。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される入居者様や終末期にある入居者様について、高齢者施設ができることを説明し、医療に係わる希望も理解する。ホームでは、介護を中心に意見を出し、適切な環境作りができるよう働きかける。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に「重度化・終末期ケア対応の指針」を説明し同意を得ている。重度化した際は医師や家族と連携し方針を共有して支援している。 ・職員である看護師が支援について職員への助言を行っている。 ・看護師による終末期援助研修が行われている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急対応の講習に参加し、AEDも備え実際に使えるように講習も参加しています。入居者様の急変については、個々の変化の可能性を理解し、優先順位を確認しておく。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニット毎に災害時の対応を定めて、生命が一番優先することを考え、防災や避難に取り組んでいる。災害時は、地域全体が被害を受けパニック化しているために、ホーム内で安全な場所の確保を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間想定を含む避難訓練を年に2回実施している。消防署員からは利用者の避難は2階のバルコニーになど、助言を得ている。定期的に横須賀市と災害関係の話し合いがある。 ・保存食など3日分ほどの備蓄品はリスト化し、管理している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人権を尊重した言葉かけを重視している。ホームでは、毎日の生活を気持ちよく快適な暮らしをしていただくことを目標としています。個人情報の管理はもちろん、プライバシーの保護も怠らないようにしている。	・入職時に個人情報保護に関する誓約書を交わし、研修を行っている。 ・管理者は人権を尊重した言葉かけを重視している。職員に不適切な言葉かけがあった時はその場で注意し、利用者の誇りを損ねない対応を指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活を自己で判断できるような援助と、自己決定を重視する環境を作っている。ご本人様の意見を傾聴し、希望や要望を活かしていきけるような援助をしていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の目標はありますが、個々の要望によって過すことも大切なことなので、個々の生活スタイルに沿った暮らしぶりをしている。また、外出は新型コロナの影響でしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホーム内では、個室以外はパブリックスペースと考え、身だしなみには十分整えて生活していただくことにより、終日パジャマや寝巻きで過すことはせず、昼と夜の違いや1日の時間配分も理解していただくよう援助する。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	居室の掃除やモップがけ、その人ができる範囲で間接的に係わったいただき、食事を食べる時は必ずスタッフも一緒に食べることを習慣化している。	・月に1回の手作りのおやつのほか、季節ごとにお月見や敬老の日などの行事食を楽しんでいる。 ・個々の力を活かし、できる利用者は下膳の手伝いをして張り合いや自信につなげている。 ・職員も共に食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックを行い、個別にまとめ1日の摂取量として一目でわかるようにしている。同時に排尿量の観察も行い、脱水予防に役立てている。食事量が低下している人には、栄養補助食品等を使い補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。自力で出来ない方は、一人ひとり洗面にて、入れ歯洗浄を同時に行っている。歯科医師訪問時に衛生士による口腔ケアをしていただき、スタッフに指導してもらう。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを確認しやすい表にして、形態別の表を作っている。これを個別のページとして、個別の援助に心がけている。	・トイレでの排泄を基本と考え、水分摂取量、習慣、排泄パターン、仕草や動作を見逃さないようにして声掛け誘導をしている。 ・自立に向けて排泄動作や衣類の着脱を支援し、立位が困難な利用者にも、2人介助などで可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄パターンを把握し、排泄量と時間を確認する。生活サイクルの中で、水分摂取と適度な運動を心がけると共に看護師と共に相談しながら、内服薬の調整も行い、適切な排泄援助を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、お一人様週2回～3回を原則として、時間は13時～15時までの時間として入浴していただいている。また、入浴は衛生面を考慮して一人ひとり新しい湯に入れ替えて入浴していただく。	・入浴は週に2、3回午後1時～3時を原則とし、個々の希望やタイミングにあわせている。利用者の状態によっては2人介助で支援している。 ・足拭きマット、お湯は利用者ごとに入れ替えている。皮膚疾患に気づく機会にもなっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の睡眠パターンを把握して、安心して眠っていただくよう環境を整えている。夜間の排泄援助も汚れている時間を短くして衛生を保つ。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方薬の種類や用法、副作用が記されているものを個別ファイルし、全職員が目を通すことができるようにしている。また、申し送りノートを活用し、職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意、不得意を把握し、出来る限り得意なこと（塗り絵・パズル等）を活かしたホームの生活を送っていただくよう援助していく。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、新型コロナの影響で外出はできなく、自粛している。収束後に出かけられればいい。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染に対する地域への配慮もあり、外出や外気浴を自粛している。 ・戸外にでられないので、夏は室内で盆踊り大会を開催し、敬老の日にはお寿司や煮物を楽しんだ。十五夜にはお団子を皆で味わった。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて、ご家族より小遣い程度の現金をお預かりして、ご利用者様の要望にあっても、今は、コンビニ等に出掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員ではなく、個々によりご家族と相談し、携帯電話を持っていただき、定期的にご家族向けに連絡を取れるような関係作りを構築できればよいと思っており、ご家族と話が出る時間はとても良いと感じている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部のスペースは、全員の共用スペースとして季節を感じて頂くような演出をフロアの壁の部分に行っている。特に行事の際は、飾り物を共に作り、飾るようにして、楽しめるよう努力している。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染防止のため、食卓を増やして座席の間隔を確保している。座席は利用者同士の関係性に配慮して調整している。 ・利用者と制作した、ハロウィンの装飾など、季節を感じる作品を飾っている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングスペースには、ソファが備えてあり、個別の居場所となっている。そこで、テレビを見たり、新聞を読んだりして自由に過している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、個別のプライバシーが保てる場所として確保している。ご入居者様が入居前にご使用の家具も持参していただき、生活の自由と安心を考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・作り付けのクローゼットや洗面台、エアコンや空気清浄機を事業所が設置している。 ・利用者は思い出のある使い慣れた家具や家族との写真、ぬいぐるみなどを飾り、自宅のような雰囲気です心安心して過ごせるようにしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者一人ひとりの認知度に合わせて生活状況を判断した上で、混乱を防ぎ安心を感じていただくよう努力する。その人らしい生活の実現に向けて支援していく。		

事業所名	グループホーム来夢の家
ユニット名	式番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「来夢の家」の理念を開設当初より作成し、各ユニットに掲示し、スタッフは共有し、日々の介護実践に反映している。管理者は、定期的なミーティングの際に、常に確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度同様、新型コロナの影響により、地域の行事が全て中止となり、保育園児との交流もできなくなりました。これは、地域全体の問題で、人と接する機会がなくなりましたので、交流ができません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度同様、新型コロナの影響により、地域の行事が全て中止となり、認知症に関する関りもできなくなりました。これは、地域全体の問題で、人と接する機会がなくなりましたので、地域の皆さんに活かす機会がありません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も地域の代表者との会合ができず、町内会長や民生委員の方々との話し合いや取り組みができない。電話では、意思の疎通ができなかった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携は、制度の改定等での指導や説明を通して、ホームの現状を伝えている。特に、横須賀市が独自で行っている、オムツの支給サービスや布団クリーニング等に協力し、利用者利益になるよう連携を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	式番館では、令和2年5月より1名の利用者に対し、身体拘束を行っている。毎月、身体拘束適正化の委員会を開き、個別の拘束をしない介護に取り組んでいる。しかし、残念ながら、拘束を必要としている状態に変化はない。これからも拘束しない介護を考える。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待防止について検討し、フロアでも話し合う機会を作っている。虐待に関しては、言葉遣いに重要性を置いて、日常の接遇面でスタッフ同士が感じることを話し合うこととしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間を通して、施設内で行う「内部研修」にて、スタッフが共に学びあえる機会を作り、共に研鑽している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、今年度の制度説明を含め十分な説明を行い、同意を得る努力をしている。日常の介護の面でも入居の際に、個別のケアについてスタッフのケアとご家族の係わりについても協力を説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム利用上の苦情を受け付ける窓口を明確にして、苦情に対する早期の対応及び解決を心がけている。また、管理者より職員への指導も徹底して行っている。外部へ表す方策として特別設けていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会議にて、老番館及び式番館のスタッフからの意見を代表者と管理者が話し合い、事業所の運営に活かしている。特に、面会を制限しているため、ご家族への対応に関して、十分な配慮をしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎年職員の就業状況を判断して、給与の水準アップや公的な最低賃金等にも配慮して、適切な処遇を目指している。休憩場所の確保や環境にも配慮している。常勤職員と非常勤職員との賃金格差がある。同一労働、同一賃金に違いある。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の教育は、個別の希望と事業所の要望を取り入れ、年間を通して計画し、資格の取得にも援助している。勉強会では、時期的に応じて企画を立てて、現在の業務に沿った勉強会としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍により、同業者との交流はなく、研修にかんしてもリモートが多いため、互いの環境に大きな変化があった。ネットワーク作りに関しては、以前よりも連絡が増えたと思う。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新たに入居される方々に対し、ホームを理解していただくような説明と理解を得る努力をします。始めて、ホームを利用される方に対し、受容を基本として、傾聴する姿勢で接します。安心が一番の接遇です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新たに入居された利用者のご家族には、生活日課や環境が不明なので積極的に状況をお知らせします。お手紙に写真を載せて、目で見えるようにし、行事には参加を促し、ご家族も楽しんでいただくようにする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前に、事前に面接をさせていただき、利用者様とご家族様の両方にお話を聞きます。その上で、具体的なプランを作り、同意を得た後、入居いただき生活が始められるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を受ける方の生活支援を介護する側の援助とはせず、利用者ファーストの意識で共に暮らす者として、関係を築きます。生活にはストレスもあり、ホームの中や外を活用して共に過す仲間のような関係作りをします。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係作りは、ご家族がホームの介護に口を出せない関係ではなく、自宅での介護状況や昔の出来事などを介護に活かしていくように、ご本人の有意義な情報の提供と実践を行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年からのコロナ禍の影響で面会や外出が出来ていない。ご家族や馴染みのある皆様も、自分がコロナを感染させてはいけない、とホームには来訪されず。体調の悪い方や終末期の方は特別に受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の生活リズムの違いを把握し、一人になる時間やリズムを整える事で孤立を防ぐようにしている。昼間に居室で人になり過ぎ時間を短くし、食事のテーブルでグループワーク等を行い、互いの協力を得るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了後も居宅介護支援事業所との引継ぎをしっかりと行うと共に、介護方法や必要な物品の調達等について助言できるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の言動や表情からご本人の意見を汲み取り、その人らしくホーム生活を送っていただけるよう心がける。家族の面会が来ないことを心配する人もおり、その都度説明しご理解を得る。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活や若い頃の様子等をご家族から聞き入れ、これまでの生活の様子を把握して、スタッフが共有できるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が一人ひとりの全身状態を把握し、自力でできる事柄には積極的に参加していただけるよう努める。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来夢の家で暮らす皆様方の生活援助に関する課題や目標を毎月のフロアー会議にて、見直し日々の暮らしの様子を検討していく。短期間に試行するような内容も個々別があり、ご家族との意見も反映していく。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を日々、時間の経過と共に記載し、職員の申し送りの際には一人の情報として伝達していく。また、全職員が情報の共有をするために、申し送りの活用をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の対応として、その時のニーズに応ずる体制作りは、その都度その場で検討して対応していく。急な病院受診のニーズもあれば外出もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着がテーマの施設であるが、新型コロナの影響で交流が出来なくなっている。コロナが収束したら再開したい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の診療については、個別の体調や慢性病等の療養管理をご家族の意見を聞き入れ、定期的な診療を提供していく。専門的な治療については、その都度専門医の指示を受けて、各科の医師と協力していく。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師が出勤する時に、必要な処置や専門的な助言、健康指導を行っている。健康チェックについては、急な変化に十分配慮して、病気の可能性を予知して考える。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況については、医療機関のスタッフに十分状況を聞き入れ、状況を把握する。その際に、直接面接して打合せを行う必要もある。早期の回復や退院に向けた手段を共に共有できる連絡を続けていく。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される入居者様や終末期にある入居者様について、高齢者施設ができることを説明し、医療に係わる希望も理解する。ホームでは、介護を中心に意見を出し、適切な環境作りができるよう働きかける。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急対応の講習に参加し、AEDも備え実際に使えるように講習も参加しています。入居者様の急変については、個々の変化の可能性を理解し、優先順位を確認しておく。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニット毎に災害時の対応を定めて、生命が一番優先することを考え、防災や避難に取り組んでいる。災害時は、地域全体が被害を受けパニック化しているために、ホーム内で安全な場所の確保を目指す。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人権を尊重した言葉かけを重視している。ホームでは、毎日の生活を気持ちよく快適な暮らしをしていただくことを目標としています。個人情報の管理はもちろん、プライバシーの保護も怠らないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活を自己で判断できるような援助と、自己決定を重視する環境を作っている。ご本人様の意見を傾聴し、希望や要望を活かしていきけるような援助をしていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の目標はありますが、個々の要望によって過すことも大切なことなので、個々の生活スタイルに沿った暮らしぶりをしている。また、外出は新型コロナの影響でしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホーム内では、個室以外はパブリックスペースと考え、身だしなみには十分整えて生活していただくことにより、終日パジャマや寝巻きで過すことはせず、昼と夜の違いや1日の時間配分も理解していただくよう援助する。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事以外は、決まった献立だが、行事時は、季節行事の献立を用意する際は、希望を反映させ、利用者さんも共に作る。食事を食べる時はできるだけスタッフも一緒に食べることを習慣化している。下膳配膳も協力していただく。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックを行い、個別にまとめ1日の摂取量として一目でわかるようにしている。同時に排尿量の観察も行い、脱水予防に役立っている。食事量が低下している人には、栄養補助食品等を使い補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。自力で出来ない方は、一人ひとり洗面にて、入れ歯洗浄を同時に行っている。歯科医師訪問時に衛生士による口腔ケアをしていただき、スタッフに指導してもらう。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを確認しやすい表にして、形態別の表を作っている。これを個別のページとして、個別の援助に心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄パターンを把握し、排泄量と時間を確認する。生活サイクルの中で、水分摂取と適度な運動を心がけると共に看護師と共に相談しながら、内服薬の調整も行い、適切な排泄援助を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、お一人様週2回～3回を原則として、時間は13時～15時までの時間として入浴していただいている。また、入浴は衛生面を考慮して一人ひとり新しい湯に入れ替えて入浴していただく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の睡眠パターンを把握して、安心して眠っていただくよう環境を整えている。夜間の排泄援助も汚れている時間を短くして衛生を保つ。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方薬の種類や用法、副作用が記されているものを個別ファイルし、全職員が目を通すことができるようにしている。また、申し送りノートを活用し、職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意、不得意を把握し、出来る限り得意なこと（塗り絵・パズル等）を活かしたホームの生活を送っていただくよう援助していく。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、新型コロナの影響で外出はできなく、自粛している。収束後に出かけられればいい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて、ご家族より小遣い程度の現金をお預かりして、ご利用者様の要望にあっても、今は、コンビニ等に出掛けていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員ではなく、個々によりご家族と相談し、携帯電話を持っていただき、定期的にご家族向けに連絡を取れるような関係作りを構築できればよいと思っており、ご家族と話が出る時間はとても良いと感じている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部のスペースは、密を避けて全体的にスペースを設けている。季節感を感じて頂くような演出は引き続き行っており、フロアの壁の部分に飾っている。コロナ禍でも楽しめるよう努力している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングスペースには、ソファが備えてあり、個別の居場所となっている。そこで、テレビを見たり、新聞を読んだりして自由に過ごしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、個別のプライバシーが保てる場所として確保している。ご入居者様が入居前にご使用の家具も持参していただき、生活の自由と安心を考えている。コロナ禍でも孤独は避けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者一人ひとりの認知度に合わせて生活状況を判断した上で、混乱を防ぎ安心を感じていただくよう努力する。その人らしい生活の実現に向けて支援していく。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム来夢の家

作成日 令和3年12月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	I	事業所の活動報告を行い、委員の意見を聞く、コロナ禍に於ける運営推進会議（書面会議）を、委員の協力のもと実施することに期待します。	コロナ禍における地域との交流で運営推進会議の開催は、難しいが委員との連絡調整は、継続して行える環境を作る。	町内会長及び民生委員と連絡し、当施設の現状と今後の地域との関りについて検討する機会を作るよう働きかける。まず、電話にて調整したい。	2か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。